

※会場からの田口の町並み。正面の山の向こうが貯水池になりダムのせいで地下水位が上昇することが予想され、これが住民にとっての不安の一つだという。

※本稿では、講演の要約を10分で理解できるよう分かりやすく記述することを目標にした。詳細資料や議論内容が必要な場合は、愛知県水資源課のホームページに公開される。

冒頭、担当運営チーム委員の戸田委員から知事のダム容認発言との関係について、このセミナーは県民に対してダムについての情報提供を目的にしているの知事発言とは関係が無いとセミナーの位置づけを改めて明らかにした。

講演①「設楽ダムの調査、設計と施工について」

栗木信之／国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所副所長

現在、ダム検証中（平成22年9月の「今後の治水対策のあり方について／中間とりまとめ 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」に基づくダム建設の妥当性の検証）のため説明は一般的なものになる（検証中だと具体的説明はできないという理由は不明）として平成21年度までの地質調査結果の説明とダム設計の一般的手法の説明を行った。

内容としては78本のボーリングを始めとするダム予定地近傍の地質調査結果の概要とダム設計の考え方概要について説明した。しかし、調査の結果、課題となった点や現在の検証テーマについて付言は無かったので本稿で特にコメントするものは無い。愛知県ホームページで公開される資料が全てである。

講演②「設楽ダムサイトの地質について」

紺谷吉弘／立命館高校非常勤講師

（国土問題研究会 設楽ダム調査団代表）
情報公開制度を利用して国の行った地質調査結果を用いた検討結果として次の五つの問題について説明した。

1. 地質及び地質構造、周辺断層の正常に関する記述が不十分で湛水したあとの安全に不安がある。
2. ダムサイト付近の岩盤の緩み、風化、地層の被膜状況についての認識が甘い。
3. 松戸地区の二重山稜の成因について調査デー

タも無いのに侵食の結果と記述しているが地すべりまたは活断層の存在の可能性がある

4. 第三紀層と先第三紀層との境界状況の把握がされておらず貯水池外への漏水が懸念され、田口市街地への漏水の心配がある。
5. ダムサイトの地すべり・崩壊地の調査が不十分であり地学の見地から心配である。

特に、地質調査がダム予定地付近に集中し地すべりなどが心配される貯水池周辺の調査が行われていないのは問題だと指摘した。

質疑応答で特徴的な点

・かつて電源開発が同じ地点にダムを計画し地質が悪いとして撤退した事実について、なぜ国土交通省ではダムが作れることになるのかという質問に対してコメンテーターが電発はアーチダムを想定していたが、国は重力式ダムを想定しているので建設は可能となったと解説した。

・貯水池から漏水するという紺谷講演での指摘について、貯水池から田口市街地までは相当距離があるのになぜかという質問に対して、田口では今でも地下水が高くダムに貯水されると更に高くなる地質構造だと説明した。

・ダムサイトの岩盤強度評価基準が甘いのではないかという質問に対して、コメンテーターが通常ダムで行われる手法であると解説した。

総じて、専門用語（二重山稜など）やローカルな地名（●●墓場、○○高校など）が飛び交う質疑で地元の人には専門用語の理解に、私のような外部の人間にはそれに加えて場所の認識に問題があつて何が問題で事業者は対策をどう考えているのか良く理解できなかった。

しかし、分かったこともある。これまでの地質詳細調査はダム予定地周辺に限られていること。したがって地すべりなどの安全についての検討は今後の課題となっていること。そのための調査・対策の費用によっては愛知県の負担が増加する可能性があることだ。

事務局：山本